

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00356

研究課題名(和文) 古代・中世の《翻訳》意識 訓読と翻案のあいだを探る

研究課題名(英文) The Consciousness of Translation in Ancient and Middle Ages: Exploring Between "Kundoku" and Adaptation

研究代表者

森田 貴之 (Morita, Takayuki)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号：90611591

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：中世以前に編まれた句題和歌(漢詩句等を題とする和歌)の作品相互の関係を簡便に知ることができる一覧を作成し、広くリポジトリにて公開した。さらに、日本文学のうち、和歌・歌論語・連歌など様々な媒体に見える漢詩句や漢語、漢籍等の摂取事例の具体的検討を通して、各事例が、それぞれの作品・作家の文学観と密接に結びついていることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

漢詩句を題とする句題和歌は、和歌における漢籍の受容の具体例として重要であるが、これまで一覧・通覧に不便であった。本研究課題においてその通覧が可能となる基盤資料の整備公開を果たし、各歌人・家集の個別の研究に留まらない、総合的な把握が可能になった。それが本研究課題の最も大きな成果であり、意義である。また和歌・連歌・絵巻・抄物・歴史文学など多様な作品を対象にその個別具体的な様相の解明にも寄与することができた。

研究成果の概要(英文)：A list of Kudai waka (Waka poems with titles taken from Chinese poetry) compiled before the Middle Ages was created and made widely available on a web repository. As a result, it became possible to easily understand the relationship between Kudai waka works. In addition, focusing on specific media such as waka, poems, renga, and prose from classical Japanese literature, and studying examples of adaptations such as Chinese poetry, Chinese classics and Chinese words, showed that each case is closely related to the literary view of each work/writer.

研究分野：中世文学

キーワード：翻訳文学 和漢比較文学 和歌文学 国語学 文献学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本古典文学作品のなかで、中国文学を直接受容した作品は多岐に及ぶが、原典の中国文学作品を「訓読」や「翻案」ではなく、「翻訳」(和文化)した作品群がある。具体的には、漢故事を歌物語化した『唐物語』や『蒙求』の和文化である『蒙求和歌』、漢詩句を和歌化した『句題和歌』などがあげられる。これらは「訓読」「翻案」との差異を考えれば「翻訳文学」という。

「翻訳」は一般に、単なる言語・文体の転換であるだけでなく、異文化間の差違に対応するため、元のコードを解体し、再コード化する行為であり、その意味では「訓読」とは大きく異なる営為であるともいえる。中国文学を受容するに際して、「訓読」という方法がありながら、古代・中世の「翻訳文学」は、敢えてそのような営為を行ったわけである。また、一方で、古来、日本文学には中国文学を換骨奪胎した「翻案」作品も多数ある。「訓読」ないし「翻案」と、中国文学を「翻訳」したとみなしうる作品の差異は何か、その差違を明確化し、「翻訳」(和文化)作品群を和漢比較文学研究に翻訳文学を位置づけることが課題であった。

2. 研究の目的

「訓読」「翻案」とは違ったものとして「翻訳」(和文化)という方法を意識的に選択した作品群は、その「翻訳」に際して、漢文作品である原典に対して自国の文学や文化の特徴を意識せざるを得なかったと考えられる。単なる「訓読」と、原典の舞台や人物、物語展開など、その世界観ごと置き換えてしまう「翻案」との“あいだ”に位置する「翻訳(和文化)」文学作品には、無意識下また意識下において、和漢の言語・文化コードの差異が現れているはずである。

「訓読」「翻案」および「翻訳」という営為の質的差異を検証し、和漢の言語・文化コードの差異、さらには「訓読」と「翻訳」との差異がどのように意識されて、「翻訳(和文化)」文学作品が作られたのか、その解明を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、周辺諸文芸との比較、検討から漢籍「翻訳」の意識を解明するべく、資料整備を含む(1)基盤的研究と(2)横断的・個別研究課題とを並行して進めていくこととした。

まず、(1)基盤的研究として、漢詩句・漢文摘句を歌題とする句題和歌の資料整備を行うこととした。句題和歌は、和歌史において、営々と読まれ続け、各作者・作品単位での研究も蓄積されてきた。しかし、個々の私家集に散らばる各作品を一覧することは容易ではなく、句題和歌史の全貌を把握することには課題が大きかった。そこで、各家集・作品から句題和歌を集成した一覧の作成を行い、広く関係研究者にリポジトリ公開することで、句題和歌史の全容把握の一助となる基本資料を提供することとした。

次に、(2)横断的・個別研究課題として、「翻訳」文学を広くとらえるべく、【和歌文学における「翻訳」】と【学問における「翻訳」】という個別課題を設定し、それぞれ【(1)和歌文学における「翻訳」】においては、(1)基盤的研究を多角的に捉える視点から、和歌・連歌作品を中心的な研究対象とし、【学問における「翻訳」】においては、主に散文分野を対象とし、中国の正史を翻訳した漢学者藤原茂範による『唐鏡』や訓読に限らない漢籍摂取・注釈の実態を知りうる抄物資料を中心的な研究対象として、考察を進めた。

4. 研究成果

(1) 基盤的研究の成果

「中古・中世句題和歌一覧(稿)」(2022年3月発行)を作成し、南山大学機関リポジトリにおいて、広くWEB公開した(https://nanzan-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=4087(URLは2023.06.01現在のもの))。

本一覧は、各家集・作品計27作品から句題和歌を集成し、句題原拠作品の本文を併せて提示し、さらに同一句題を持つ他作品を簡便に把握し、相互に通覧することを可能にしたものである。これにより、中世以前に編まれた句題和歌の広がりの様相、作品相互の関係を簡便に知ることができるように、各歌人・家集の個別の研究に留まらない、総合的な把握が可能になった。また、本一覧には、小山順子により「中古・中世句題和歌略史」を付し、「一覧(稿)」収録作品を含めた句題和歌の史的展開を概観する論考を収めており、収録各作品の句題和歌史上の位置づけを併せて知ることができる点も有益である。

南山大学機関リポジトリによって公開された本一覧は、公開後約1年半を経た2023年6月1日現在、4128件のダウンロード数が記録されており、研究者によって広く利用されている実態がうかがえ、本一覧の有益性が示されたと言え、今後の句題和歌研究の進展に寄与することが予想される。本一覧により、漢詩句を日本の和歌に「翻訳」する句題和歌の営為の実態が、さらに

解明されることが期待される。

また、句題が明示されかつ五首以上の句題和歌を持つ作品のみを対象とした本一覧を補うものとして、小山順子『『檜葉和歌集』所収の句題和歌：鎌倉時代の句題和歌断章』(『女子大文』171、2022年)により、『檜葉和歌集』所収の句題和歌を取り上げ、従来の句題和歌の範囲に留まらない、南都の学僧の関心の反映を指摘したほか、『新三井集』『続門葉集』の句題和歌について触れ、それぞれ本一覧(稿)と同形式で句題和歌を掲出し、補遺篇の役割を果たしている。

(2) 横断的・個別的研究課題

和歌文学における「翻訳」

小山順子「西行の朗詠集撰取と仁和寺歌壇」(『西行学』12、2021年)が、西行和歌における表現の問題として、漢語から和歌への翻訳表現と換言することのできる漢詩文訓読表現を指摘・検討し、同時代和歌において特に仁和寺第4世御室・覚性法親王周辺からの影響が強いことを考察した。

竹島一希「宗硯における漢詩文撰取」(『日本文学研究ジャーナル』23、2022年)は、連歌師宗硯を対象に個別の研究を進め、宗硯句の自注の分析からその漢詩文撰取の様相を考察した。

主に個別の歌人・連歌師を対象とした以上の研究成果に加え、小山順子「日本文学と鸚鵡—歌論用語「鸚鵡返し」をめぐる—」(『アジア遊学』275、2022年)は、歌論に用いられる「鸚鵡返し」の語を端緒として、横断的に日本文学における「鸚鵡」人の言語を模倣する、異国の鳥としての「鸚鵡」認識を論じた。

こうした各個人のなかでの漢籍・漢語の解釈ひいては中国文化コード解釈の実態の解明と同時に、通史的、横断的視点による漢籍受容研究をさらに交差させていくことで、当初の研究目的であった和漢の言語・文化コードの差異もより鮮明に浮かびあがってくるはずである。

また、阿尾あすか『『尹大納言絵詞』の成立の背景:福岡市美術館本の画中詞の検討を中心に』(『人文学研究』6、2021年)は絵巻に付された花山院師賢の画中詞を取り上げた。絵の中に書き込まれたテキストである画中詞は、言語間の転換という意味での翻訳には含まれないが、絵と詞というメディア間の転換を如実に示すものである。本論稿ではその画中詞の検討から絵巻の成立背景に迫った成果である。

学問における「翻訳」

漢籍・仏典等を注釈した講義録・筆記録である抄物は、主に口語研究などの国語学的資料として用いられることが多かったが、その文献学的読解研究は、漢籍受容の視点からも寄与することが大きいと思われるが、そうした視座からの研究は乏しく重要な課題であった。『訓点語と訓点資料』の小特集「訓点資料研究に期待すること」に投じられた、蔦清行「抄物研究から：翻訳・注釈としての訓点資料と抄物」(『訓点語と訓点資料』146、2021年)は、そうした視座からの抄物研究に言及するものである。

その具体的な試みとして、蔦清行「ソソゾ攷：文献学的抄物読解」(『間谷論集』14、2020年)は、『古文真宝前集抄』、一韓智翹抄『山谷抄』等に見られる特殊な語義をとりあげ、蔦清行「(筆端鼓舞」という評価：抄物を通して見た文藝批評序説」(『日本語・日本文化』49、2022年)は、抄物の中に見られる「(筆端)鼓舞」という言葉を手がかりに、中世後期の五山禅僧が漢籍から得た表現をどう用いたのかを論じた。山中延之「抄物に見られる打消接続助詞「いで」—柏舟宗趙講『周易抄』を中心に—」(『女子大文』168、2021年)も、柏舟宗趙講『周易抄』を対象として、個別にその実態に迫った。

以上の抄物に限らない漢籍撰取の具体例として、森田貴之『『唐鏡』前漢部の正史利用法—紀伝体から編年体へ—』(『南山大学日本文化学科論』23、2023年)は、中国正史を日本の鏡物体裁に「翻訳」した作品である『唐鏡』をとりあげ、その前漢部の『史記』『漢書』の利用方法を再検討し、作中に多数見られる『漢書』五行志の撰取が、著名故事に傾きがちな『唐鏡』の歴史叙述を編年的な歴史叙述体として維持する役割を果たしていることを考察した。これにより単純な訓読に近いと見なされる作品においても原典を再構成の行われていることが示された。

以上の・の和歌・歌論語・連歌・抄物・鏡物など様々な媒体に見える漢詩句や漢語、漢籍の撰取事例の、各個別具体的な事例の検討により、それぞれの作品・作家の文学観と密接に結びついていることがあらためて示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 蔦 清行	4. 巻 49
2. 論文標題 「筆端鼓舞」という評価：抄物を通して見た文藝批評序説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語・日本文化	6. 最初と最後の頁 1~18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/87448	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小山順子	4. 巻 12
2. 論文標題 西行の朗詠集撰取と仁和寺歌壇	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西行学	6. 最初と最後の頁 104-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 蔦清行	4. 巻 146
2. 論文標題 抄物研究から（小特集 訓点資料研究に期待すること）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 118-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山中延之	4. 巻 168
2. 論文標題 抄物に見られる打消接続助詞「いで」 柏舟宗趙講『周易抄』を中心に 雑誌名：女子大國文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女子大國文	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿尾あすか	4. 巻 6
2. 論文標題 研究ノート『尹大納言絵詞』の成立の背景－福岡市美術館本の画中詞の検討を中心に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学研究	6. 最初と最後の頁 42-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥清行	4. 巻 14
2. 論文標題 ソソゾ致：文献学的抄物読解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 問谷論集	6. 最初と最後の頁 192-172(25-45)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山順子	4. 巻 171
2. 論文標題 『檜葉和歌集』所収の句題和歌 鎌倉時代の句題和歌断章	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女子大國文	6. 最初と最後の頁 93-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山順子	4. 巻 275
2. 論文標題 日本文学と鸚鵡 歌論用語「鸚鵡返し」をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 206-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹島一希	4. 巻 23
2. 論文標題 宗廟における漢詩文撮取	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田貴之	4. 巻 23
2. 論文標題 『唐鏡』前漢部の正史利用法 紀伝体から編年体へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南山大学日本文化学科論集	6. 最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 小山順子
2. 発表標題 西行の和歌表現と仁和寺歌壇
3. 学会等名 歌の力：西行生誕900年記念国際研究集会(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 森田貴之・阿尾あすか・小山順子・竹島一希・蔦清行・山中延之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 南山大学人文学部日本文化学科森田貴之研究室	5. 総ページ数 168
3. 書名 中古・中世句題和歌一覧(稿)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

中古・中世句題和歌一覧(稿)
https://nanzan-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=4087

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山中 延之 (Yamanaka Nobuyuki) (00782591)	京都女子大学・文学部・講師 (34305)	
研究分担者	竹島 一希 (Takeshima Kazuki) (10733991)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	鳶 清行 (Tsuta Kiyoyuki) (20452477)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	小山 順子 (Koyama Junko) (20454796)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	
研究分担者	阿尾 あすか (Ao Asuka) (30523360)	相愛大学・人文学部・准教授 (34421)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------